

数値目標の設定のある項目の進捗状況

小項目No.		35	61	62																					
中期計画	中期計画	<p>ア 「京都芸大キャリアアップセンター（仮称）」の設立</p> <p>在学生のみならず卒業生も対象に、一人ひとりの状況に応じた長期的支援を行うため、専門スタッフを配置するなど体制を強化し、教職員と協働で学習支援、進路支援、就職支援及び芸術家へのキャリアサポート等の総合的な取組を行う「京都芸大キャリアアップセンター（仮称）」を設立する。</p>	<p>イ 作品展、演奏会、公開講座等の開催</p> <p>京都芸大の教育研究活動を市民に積極的に還元し、迅速かつ有効に発信するために、市民が広く芸術に親しめる作品展、演奏会及び公開講座・セミナーを開催する。</p>	<p>ウ 「京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA（アクア）」の活性化</p> <p>京都芸大サテライト施設「京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA（アクア）」において、定例的に教員・学生・卒業生等の作品展、公開講座・セミナー等を開催することによって、教育研究の成果を還元するとともに、@KCUA が市民にとって、学生や芸術家等との交流の場として、文化芸術を身近に感じることが出来る開かれた大学の拠点となることを目指す。</p>																					
	数値目標	卒業・修了生等のうち進路未定者の割合 10%（29年度）	作品展、演奏会、公開講座等の開催数 60事業（29年度）	堀川御池ギャラリーにおける京都芸大関連の作品展等入場者数 20,000人（29年度）																					
数値目標の考え方	計画作成時の状況	19.34%（22年度）	43事業（22年度）	16,400人（22年度）																					
	年度毎の数値目標の考え方	<p>28年度（※）には10パーセントを達成できるよう毎年2パーセント減らすことを目標とする。</p> <p>実績数値は、毎年3月末の進路未定者の割合を仮実績として、留学者も含めた最終実績を翌年の3月末に確定する。</p> <p>（※）留学者も含めた進路未定者の割合を確認するため、中期計画の数値目標の達成年度を1年前倒しして28年度とした。</p>	<p>24年度実績の55事業から24年度単発事業の4事業を除いた51事業をベースとして、原則として毎年2事業を増やすことを目標とする。</p>	<p>24年度のギャラリー@KCUAへの入場者数は19,320人と数値目標に近い実績であることから、25年度以降の数値目標は毎年度、中期計画の数値目標と同じ20,000人とする。</p>																					
	年度毎の数値目標	<table border="1"> <tr> <td>24年度</td><td>25年度</td><td>26年度</td><td>27年度</td><td>28年度</td><td>29年度</td> </tr> <tr> <td>18%</td><td>16%</td><td>14%</td><td>12%</td><td>10%</td><td>10%</td> </tr> </table>	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	18%	16%	14%	12%	10%	10%	<table border="1"> <tr> <td>25年度</td><td>26年度</td><td>27年度</td><td>28年度</td><td>29年度</td> </tr> <tr> <td>52事業</td><td>54事業</td><td>56事業</td><td>58事業</td><td>60事業</td> </tr> </table>	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	52事業	54事業	56事業	58事業	60事業
24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度																				
18%	16%	14%	12%	10%	10%																				
25年度	26年度	27年度	28年度	29年度																					
52事業	54事業	56事業	58事業	60事業																					
中間実績（案）	自己評価	<p>自己評価：Ⅳ</p> <p>24年度に「キャリアアップセンター」を設立し、教職員による協働と専門スタッフを配置した体制にて、開設初年度から在学生、卒業生に対し各種支援事業を実施している。また、対外的な理解と学生の利用を促進するため、同センターの名称を見直すこととした。</p>	<p>自己評価：Ⅳ</p> <p>本学の教育研究活動を市民に還元するため、作品展や演奏会等を積極的に開催している。また、26年度に設立した芸術資源研究センターにおいても事業を積極的に展開している。</p>	<p>自己評価：Ⅳ</p> <p>年間を通じ、学内外の若手アーティストの積極的プロデュース、外部資金による受託事業、本学のコレクションの公開、現代美術のネットワーク形成といった多角的な活動を実施した。これらに取り組むとともに、体制の整備にも実施している。</p>																					
数値目標の見直し	数値目標実績推移	<p>24年度 6.98%</p> <p>25年度 4.29%</p> <p>26年度（追跡調査未実施）</p>	<p>24年度 55事業</p> <p>25年度 71事業</p> <p>26年度 74事業</p>	<p>24年度 19,320人</p> <p>25年度 20,609人</p> <p>26年度 23,560人</p>																					
	修正の有無	達成年度前倒し	修正なし	修正なし																					
	内容等	後追調査の結果が明らかになる時期を考慮し、数値目標を「10%（28年度）」とする。	既に実績は数値目標を上回っているが、評価委員会より質を維持した継続実施の必要性を指摘されていることを踏まえ、数値目標の引き上げは見送る。	既に実績は数値目標を上回っているが、作品展の内容や若手作家のサポート等の質を重視することとし、数値目標の引き上げは見送る。																					

小項目No.		80	81	87
中期計画	中期計画	<p>(3) 中長期的な展望に立った事務職員の採用・育成</p> <p>中長期的な展望に立ち、経営や教育研究の支援等に係る専門的な知識・能力を備えた事務職員の採用・育成等を行う。</p>	<p>(4) SD（事務職員の能力開発等の研修）の実施</p> <p>大学運営を担うに十分な能力・適性を有する事務職員を養成するため、SDを実施する。</p>	<p>(3) 共同研究・科学研究費補助金等申請の促進</p> <p>幅広い分野との共同研究の促進や科学研究費補助金等の申請に積極的に取り組む。</p>
	数値目標	事務局におけるプロパー職員の比率 65%（29年度）	事務職員の能力開発研修の実施回数 2回（毎年度）	科学研究費補助金等申請件数 24～29年度 80件 （18～23年度比 10%増）
数値目標の考え方	計画作成時の状況			72件 （18～23年度）
	年度毎の数値目標の考え方	年度計画の数値目標は、派遣職員の人事異動やプロパー職員の年齢構成等を考慮する必要があるため、設定しないこととする。	中期計画に記載のとおり、事務職員の能力開発研修を毎年度実施する。	24年度及び25年度採択向けの申請実績30件（累積）を除いた50件を4年間で達成できるよう毎年13件の申請を目標とする。
	年度毎の数値目標	設定なし	学内実施2回	13件（ただし、前年実績が13件に達していないときは、未達成分を加算する。）
中間実績（案）	自己評価	<p>自己評価：Ⅲ</p> <p>中長期的な展望に立ち、経営や教育研究の支援等に係る専門的な知識・能力を備えた事務職員の採用・育成等に取り組んでいる。</p> <p>【プロパー職員採用実績】</p> <p>各年度において事務局プロパー職員を採用試験等により採用した。</p> <p>24年度：事務6名、保健師1名を採用決定。</p> <p>25年度：事務2名を採用決定（係長級職員1名、係員1名）</p> <p>26年度：事務3名を採用決定。</p>	<p>自己評価：Ⅲ</p> <p>大学運営を担うに十分な能力・適性を有する事務職員を養成するため、学内でのSDに加え、学外のSD等も積極的に活用しており、今後も継続していく。</p> <p>【学内研修実施実績】</p> <p>新規採用職員及び新任職員（京都市派遣職員）研修（24～26年度）</p> <p>新任係長研修（26年度）</p> <p>【主な学外研修参加実績】</p> <p>公立大学協会主催セミナー等（24年度～）</p> <p>大学コンソーシアム京都主催ビジネスマナー研修（基礎編）（26年度）</p> <p>京滋地域芸術系大学合同SD研修（26年度）</p> <p>【SD以外の学内研修実績】</p> <p>外部から招へいたカウンセラーによるメンタルヘルス研修（26年度）</p>	<p>自己評価：Ⅲ</p> <p>幅広い分野との共同研究の促進や科学研究費補助金等の申請に積極的に取り組んでおり、科研費については、申請件数は年度毎にばらつきはあるものの年度当たりの平均件数は、数値目標達成ペースである。また、共同研究については、外部研究機関の資金を活用した研究を実施している他、科研費の分担研究制度も活用し、幅広く取り組んでいる。</p>
	数値目標実績推移	24年度 5.8% 25年度 27.0% 26年度 42.1%	24年度 学内開催2回 25年度 学内開催2回 26年度 学内開催2回	24年度 30件 25年度累積 45件 26年度累積 56件
数値目標の見直し	修正の有無	修正なし（ただし、プロパー職員には上記採用職員のほか、京都市退職派遣職員、契約職員、非常勤嘱託による管理職を含める）	修正なし	修正なし
	内容等			

小項目No.		89	96	102									
中期計画	中期計画	(5) 民間企業等との協力による展覧会等の実施 民間企業等との協力による展覧会や演奏会等の事業を開催する。	(2) 図書館等の運営の改善 図書館等の大学施設の運営について、利用者の声を聴き、ニーズに応じて改善する。	(3) ホームページの充実 大学の教育研究内容を海外も含めて広く発信するため、ホームページを充実する。									
	数値目標	民間企業等との協力による事業の実施数 10事業(29年度)	附属図書館への入館者数 38,000人(29年度)	ホームページアクセス数 2,000,000件(29年度)									
数値目標の考え方	計画作成時の状況	6事業(23年度)	32,345人(22年度)	1,295,150件(22年度)									
	年度毎の数値目標の考え方	24年度単発事業の2事業を除いた24年度実績(10事業)において、中期計画の数値目標である10事業を達成していることから、10事業を目標とする。	24年度実績の33,044人をベースにして、25年度以降原則として、毎年1,000人増やすことを目標にする。	24年度実績(1,989,053件)が、中期計画の数値目標をほぼ達成していることから、中期計画の数値目標2,000,000件を目標とする。									
	年度毎の数値目標	10事業	<table border="1"> <tr><td>25年度</td><td>34,000人</td></tr> <tr><td>26年度</td><td>35,000人</td></tr> <tr><td>27年度</td><td>36,000人</td></tr> <tr><td>28年度</td><td>37,000人</td></tr> <tr><td>29年度</td><td>38,000人</td></tr> </table>	25年度	34,000人	26年度	35,000人	27年度	36,000人	28年度	37,000人	29年度	38,000人
25年度	34,000人												
26年度	35,000人												
27年度	36,000人												
28年度	37,000人												
29年度	38,000人												
中間実績(案)	自己評価	自己評価：Ⅳ 各年度において、民間企業等との協力による展覧会や演奏会等の事業を開催している。開催内容については、単年度の事業に終わらず、継続開催され、定着しているものも多い他、新規の取組も積極的に展開している。 (主な継続事業) ・ピアノフェスティバル(京都ライオンズクラブ) ・ホワイエコンサート(国立近代美術館) ・ソリストティックコンサート(京都ブライトンホテル) ・長岡京市学生オーケストラの響宴(長岡京記念文化会館) ・サテライトコンサート(京都新聞社) ・京都銀行による作品購入を通じた美術研究支援 ・京都中央信用金庫ビジネスフェア ・北山駅作品展示(京都市音楽芸術振興財団)	自己評価：Ⅱ 図書館等の大学施設の運営について、利用者の声を聴きながら、下記のとおり各年度においてニーズに応じた改善等を実施しており、今後も中期計画の期間中、引き続き必要な対策を講じていく。 【改善事項】 カウンター業務及び蔵書点検の委託化により、年間開館日数を22年度の173日から24年度は216日に、さらに25年度は223日に拡大した。 25年度末に約7,000冊収納の自動書架を設置し、所蔵図書の見学環境を整備した。 また、電子ジャーナルのJSTOR閲覧サービスや、学生自身が購入する本の選定を行う学生選書ツアーを開始した他、収蔵庫所蔵資料の整理により図書検索システムへの登録を推進するなど、学生により親しまれる図書館を目指した改善を実施した。	自己評価：Ⅲ ホームページの適宜更新をはじめ、Webの充実の一環として、SNSも活用した情報発信に取り組むこととし、Facebookやtwitterの大学公式アカウントを設置し、情報の拡散に努めている。今後も中期計画期間を通して、継続して発信する情報の内容充実に努めていく。 【公式ホームページの充実】 24年度より海外向けの英語版ホームページを開設するとともに、大きなイベント実施時には特設ページを設置した。 作品展のページについて26年度より新たに、8年度から現在までの受賞作品画像が検索できる機能を追加し、閲覧者の利便性を高めるなど、質の改善を行った。 【SNSの活用】 24年度よりFacebook, twitterの公式アカウントを設置し、情報の拡散に努めた。									
	数値目標実績推移	24年度 12事業 25年度 16事業 26年度 15事業	24年度 33,044人 25年度 32,554人 26年度 34,534人	24年度 2,444,716件 25年度 2,627,755件 26年度 2,435,388件									
数値目標の見直し	修正の有無	修正なし	修正なし	上方修正									
	内容等	既に実績は数値目標を上回っているが、評価委員会より事業を継続させる努力を求められていることを踏まえ、数値目標の引き上げは見送る。	数値目標は図書館等の運営改善に向けた努力目標であることを鑑み、引き下げは行わず、目標実現に向けて各種取組を進めていく。	ホームページとFacebookのアクセス数の合計で年250万件に変更する。									

年度計画No.		109
中期計画	中期計画	(1) 法令順守への意識の向上 教職員の法令順守への意識の向上を図るため、検収や啓発等の取組を定期的に実施する。
	数値目標	法令順守に関する研修の実施回数2回 (毎年度)
数値目標の考え方	計画作成時の状況	実施無し
	年度毎の数値目標の考え方	毎年度継続して、中期計画で定めた数値を目標とする。
	年度毎の数値目標	2回
中間実績(案)	自己評価	自己評価：Ⅲ 教職員の法令遵守への意識の向上を図るため、研修や啓発等の取組を定期的に実施している。また、全ての教職員が共通の認識を持って法令遵守を実践していくため、留意及び確認すべき事項を取りまとめた「公立大学法人京都市立芸術大学コンプライアンス推進のための行動規範」を策定した。
数値目標の見直し	数値目標実績推移	24年度 2回 25年度 2回 26年度 2回
	修正の有無	修正無し
	内容等	